

質問

乳がんと診断されても将来、妊娠できますか？

乳がん診断下での妊娠



井上 寛章

徳島大学病院
乳腺外科講師

回答

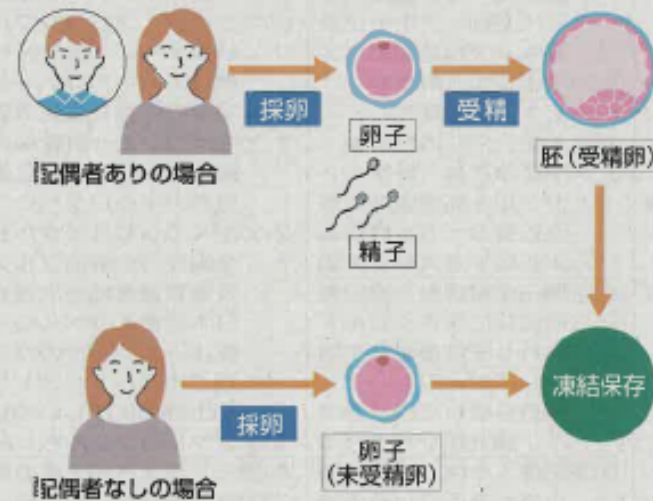
乳がんを診断されると、「この先、妊娠できるのだろうか」と不安に感じる方は少なくありません。特に若い世代は、治療だけでなく将来の結婚や出産について悩まれることも多いです。しかし乳がんを発症したからといって、必ずしも妊娠を諦める必要はありません。

乳がん治療では、抗がん剤やホルモン療法を行うことがあります。抗がん剤の一部は卵巣機能に影響を及ぼすため、月経が止まったり、妊娠しにくくなったりする可能性も否定できません。

女性ホルモンが関係するホルモン受容体陽性乳がんは、再発予防のために5〜10年程度ホルモン療法を続けることがあります。期間中は妊娠を避ける必要があります。治療開始前に「将来子どもを

治療開始前に卵子保存

適切な時期 医師と相談



望むかどうか」を主治医に伝えることが大切になります。がんの治療計画だけでなく、妊娠をするための計画も立てる必要があります。

現在では、妊孕性（妊娠する力）を守るための方法も進歩しています。

代表的なものとして、卵子や受精卵を凍結保存する方法があります。これらは治療開始前に検討し、準備しなければなら



がん何でもクイズ

がん細胞が血液やリンパ液に乗って別の臓器に移動し、そこで増殖することをなんという？

①転移②潜伏③浸潤

行こうよ！がん検診

近年は医療の進歩により、乳がん治療後に妊娠・出産を経験される方も増えていきます。大切なのは、「治療」と「将来の希望」を両立できるような、早い段階から主治医と話し合うことです。不安や悩みを一人で抱え込まず、遠慮なく相談してください。未来の選択肢を守るためのサポート体制は少しずつ整ってきています。

妊娠後の乳がんの再発を心配される方もいますが、最近の研究では、適切な時期に妊娠した場合、妊娠自体が再発リスクを大きく高めるわけではないと考えられています。ただし、乳がんのタイプや再発リスク、治療内容によって適切なタイミングは異なるため、自己判断ではなく主治医とよく相談することが必要です。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター

電話 088 (634) 6442

(平日午前

8時半から

午後5時まで

へ。)

